



▲盲目の女性旅芸人である高田瞽女が江戸時代から昭和初期にかけて活躍。写真は昨年イベントで再現された「門付け」の様子

現在、事業者や市民団体との協働による城下町高田の歴史と文化をいかしたまちづくりとして、日本最古級の映画館「高田世界館」や老舗料亭と連携した誘客・回遊強化、歴史・文化資産を生かした交流拠点づくりに取り組み、定住の促進と交流人口の拡大を図っています。

### 地方創生の取り組み

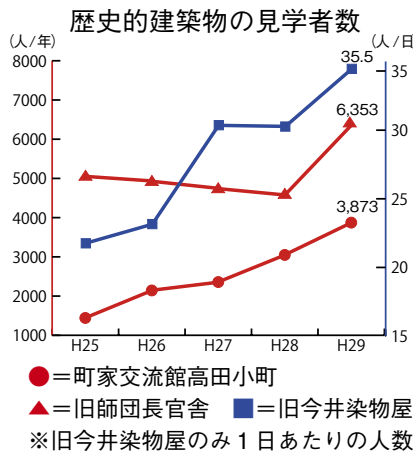
当市は、平成28年に地域再生法に基づき地域再生計画の認定を受け、平成30年3月には内閣府と国土交通省が選定する地方再生コンパクトシティのモデル都市に選定されました。

### 市外からの来訪者が増加

歴史的建築物の来訪者数を調査したところ、町家交流館高田小町、旧今井染物屋の見学者数は、新幹線開業の影響もあり増加の傾向が見られます。旧師団長官舎は、各種メディアで取り上げられた結果、平成29年度に見学者が増加しました。

### 新しい魅力を生み出す挑戦

市の取り組み以外に、事業者や市民団体による自発的な取り組みも広がっています。次のページで詳しく紹介します。



明治時代に建築された町家を再生した「町家交流館高田小町」(左)と日本最古級の映画館「高田世界館」(右)

## 高田の歴史と街並み

慶長19(1614)年、徳川家康の六男・松平忠輝が伊達政宗ら有力大名の普請により高田城を築城しました。併せて福島城下から武家町や町人の町などが移され、新しい越後の都の礎が形作られました。4代藩主・松平光長の時代に城下町が整い、雁木の街並みも、この頃以降にできたと考えられています。

高田藩解体後の明治期には、石油産業や繊維業などの近代産業が成長し、鉄道網が整備されました。そして、陸軍を誘致したことで人口が増え、洋風建築が多く造られました。明治44(1911)年には、高田市が誕生し、戦争や昭和の高度成長期を経て、現在の高田地区へとつながっています。